

都市計画道路補助第283号線拡幅計画の断念を求める陳情

(建設委員会付託)

受理番号 第89号

受理年月日 令和3年6月28日

付託年月日 令和3年9月28日

陳情者
.

陳情原文 東京都葛飾区の境から蔵前橋通りまで北小岩7、4、3丁目と約2km(1950m)をはしる都道補助第283号線は、昭和41年、今から56年前に幅員16mへと計画されたものです。令和3年5月の時点で幅員は従来の6~7mのままで、工事は一切行われておりません。

この間、住環境をはじめとする私たちの生活環境は大きく変化し、車の流れも変わってきております。新たな幹線道路の整備です。

例えば、東京外郭環状道路は平成30年6月に千葉県松戸市 - 同縣市川市間で供用が開始され、その結果、自動車の交通量が篠崎街道(北行、江戸川病院付近)で30%減、岩槻街道(南行、補助第264号交差点付近)で33%減と、実に3割も減少しているのです。減ったのは千葉、袖ヶ浦、野田、習志野、つくばなどのナンバー車で、排ガスや騒音を撒き散らすトラック、ミキサー車等の減少が顕著です。

別の動きもあります。運転免許証返納です。昨年1年間に都内で免許証を自主返納したドライバーは約6万2000人余です。その90%以上が65歳以上の方々でした。

これは過去2番目の多さで、都内池袋で高齢ドライバーが暴走、母子2人が死亡、9人が重軽傷を負った事故の影響でしょう。

車に関しては、若者の自動車離れも進み、30歳未満の男性単身世帯の車普及率は50%を切っているほどです。

今、新型コロナウイルスが世界を席卷しています。冷静に考えれば第2次世界大戦後75年、何かが大きく変わろうとしている、新しい時代の転換点に私たちは立っているのではないのでしょうか。

出社も週3日、会議はオンライン、印(判)は不要...。そして物流もシステムも大きく変化していくでしょう。そういう時代にあって、立案以来50年も手付かずの道路計画。今さら静かな環境を破壊するような計画は許すべくもなく、私たちは都道補助第283号線の拡幅計画に反対し断固撤回することを求めます。